

第40回日本義肢装具学会学術大会

産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座 越智光宏

第40回日本義肢装具学会学術大会（産業医科大学、佐伯覚大会長）は「社会を支える義肢・装具、支援機器」をテーマに11月9～10日に、福岡市の電気ビルで現地開催されました。2日目には小雨でしたが、約1,250名の多職種の方々が参加されました。

大会長講演では、適合した義肢・装具は美しいこと、すぐに適合しない場合も最適解をえることを目標に長いスパンで少しずつ課題を整理すること、義肢・装具や支援機器を使用することは社会を変える力をもたらすことなどが述べられ、障害を有するユーザーが社会で活躍できるように支援することの重要性を感じるものでした。

大会前日は40周年記念行事が行われ、当日も講演、企業展示、ハンズオンセミナー（義手）、YIAセッション、学生ポスター発表など、熱気あふれる盛会となりました。飯田賞は森田千晶先生が本賞を、白銀眺先生、須田裕紀先生が奨励賞を受賞されました。

第41回学術大会（新潟医療福祉大学、東江由起夫

海外招待講演をされた Sanders 教授（ワシントン大学）と佐伯覚大会長



本学スタッフも一生懸命お手伝いさせていただきました

大会長）は「疾患別治療、障害別リハビリテーション、高齢別福祉住環境における多職種連携アプローチ」をテーマに2025年11月8～9日に新潟市で開催されます。オーガナイズセッションの公募が始まっており今から開催を待ち遠しく思います。

日本転倒予防学会第11回学術集会

鹿児島市立病院リハビリテーション部 鶴川俊洋

日本転倒予防学会第11回学術集会（佐賀大学医学部附属病院、浅見豊子会長）が2024年11月23～24日にSAGAアリーナ（佐賀市）で好天候のもと約630名を集めて開催されました。

「家庭でも職場でも社会でも転ばないin SAGA」をメインテーマに、2014年学会発足20周年記念を踏まえた盛りだくさんのプログラムが組まれました。23日に市民公開講座「世界一のミスが教える転ばない歩き方」が開催され、多角的視点からの転倒防止策を学ぶとともに、体操指導の場面では自らの柔軟性低下に気づかされました。同日夜には20周年記念会が盛大に開催されました。

24日の会長講演では、浅見会長が自らの転倒経験や学会の展望を軽やかに語られました。斬新な企画であった特別シンポジウム1「スポーツと転倒」や学会20周年記念講演も盛況でしたが、多職種転倒予防チームの活動などが発表された一般演題会場は立ち見がで

浅見豊子会長の開会挨拶

大盛況の一般演題会場



るほどの賑わいでした。RJN合同ワークショップ（運動器エコー実習）でも参加者が熱心に取り組んでいました。各セミナーにおいても浅見会長の熱い佐賀愛が盛り込まれ、2024年度国民スポーツ大会が開催されたSAGAアリーナという広い空間のなかで非常に活気にあふれた学術集会でした。

次回は2025年10月4～5日にGメッセ群馬で開催されます。転倒予防に取り組まれている本医学会会員の方々は是非ご参加いただければと思います。